

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、第三者評価の資料となります。第三者評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、第三者評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム「銀の鈴」
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	兵庫県加西市畑町2289-59
記入者名 (管理者)	露口 道子
記入日	平成 20年 9月 25日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は第三者評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	昨年より、在宅介護において支障がみられる地域の方に対して、ご家族に介護サービスの制度をお話したり、ご本人をホームに招き、過ごして頂く等を、職員と共に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	第三者評価の結果について、職員を対象にした勉強会を行い、評価項目を検討する事が、職員全員で日常のケアの中で見直す機会と捉え確認していくよう取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度より小規模多機能サービス利用のご家族にも参加いただき、地域密着の意義を理解していただくと共に、サービスの実情も報告し、話し合った。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政主催によるグループホーム連絡会議の場で、市担当者及各ホーム職員間で、連絡事項やサービス向上に関する意見交換を行い、行政との連携をとっている。又、あったか介護相談員の来訪により、入居者の意見を聞くなど、サービス向上のための活動がある。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	昨年に引き続き全職員を対象に勉強会を行い、制度の理解に努めている。今後必要な方には活用できるよう取り組んでいる		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会において関連法について学び、理解を図った。虐待となりうる行動が、いつも行っているケアの中に、見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時、重要事項説明書に添って詳しく説明し、疑問点や不安などの事柄を確認しながら納得を得ている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>外部者である“あったか相談員”の受け入れを月1回行い、苦情や相談等を表せる機会を持っている。又、管理者、ケアマネジャーにより困っていることや意見を聞く機会を随時に持ち、運営に反映させている。</p>	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月の行事や生活の様子を、写真と文章によりご家族様に報告している。また、体調、服薬、受診、預かり金等についての報告も行っている。又、ご家族来訪時には、ご本人の様子についてその都度報告している。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご家族様等には、面会時やケアプラン説明時に意見や苦情の聞き取りをしている。出されたご意見等は、「苦情報告書」や「ご意見カード」により速やかに検討し、ご家族様に対し改善策を伝え、理解を得るよう努めている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>折に触れ個人的には意見・提案を聞くよう努めている。又、ミーティング等の機会にも意見を聞き、全員で検討し運営に反映させている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>援助を必要とする状況にあわせて、夜間応援体制のため職員を確保するなど、柔軟な対応をしている。</p>	
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の離職は入居者の不安材料を少なくするためにも、移動等を伝えないときもある。グループホームと多機能ホームとの異動はあるが、相互に交流があり職員が見当たらず不安な様子が見受けられた場合には、顔を出すことによって不安を解消している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	市の主催するセミナー等、何名か研修会に出席できるよう調整し受講させている。研修内容を報告書で提出すると共に、職場でも報告する機会をもっている。又、内部研修も年間計画に基づき、学習するよう取り組んでいる。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の連絡会において交流を図ると共に、ホーム間での相互見学が可能となり、ネットワーク作りとサービスの質の向上に取り組んでいる。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	聞き役となる担当職員を配置し、職員がストレスを溜め込まない配慮をしている。又、有線による明るい音楽や心地よい環境、働きやすい環境作りに取り組んでいる。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は職員と共に、現場で介護にあたり、職員個々の努力等については把握できる状態である。その上で、一人ひとりの個性を伸ばせるような状況を作り、趣味や資格、職員の特技などを生かせるよう努めている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人のニーズを把握するため、自宅に出向き生活の様子をよく聴いて、ご本人が安心して利用できるよう対応している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人が安心して利用されるためにも、本人自身の気持ちを大切に話し合い、ご家族様の希望をよく聴き、不安を解消した上で利用していただくよう努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学を通して、ホームでの生活がご本人にとって望ましい事を見極めた上で利用を勧めている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、ご本人の生活や、ご家族の気持ちを把握するため、自宅訪問をしたり、ホームの見学が出来るよう体制をとっている。又、ご家族との関係を大切にしつつ、ホームでの雰囲気に馴染めるよう、外泊や面会等を、ご本人の希望や状態に合わせてながら行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	まず、人生の先輩としての尊厳の心を持って接することを基本とし、プライドを傷つけない。又、入居者の出来ることを職員と一緒にさせて頂く事で、自信や信頼関係を深め、共に過ごし安心して心安らぐ場所作りを行っている。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	外出・外泊等ご家族による援助があり、共にご本人を支える関係を築いている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご本人・ご家族間に誤解が生じることがあれば、職員は両者の関係が傷つかないよう支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚、友人に対して季節の頼りや、気遣いへのお礼の手紙などを送れるよう積極的に働きかけを行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が、それぞれの部屋を訪問し、世間話しをするなどの関わりがあり、職員はそれを理解し支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	入院等で退去される利用者については、退院の際の相談、援助を行ったりその後の様子を伺う等の対応を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅での生活の様子や、ご本人が大切に思っておられること、入居前の聞き取りや入居後の関わりの中で、可能な限りの情報収集を行い、表情やしぐさ等で見極め、ご本人の気持ちについて職員間で話し合い検討している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活をご本人・ご家族から詳しく情報を収集し、生活を変えてしまうのではなく、これまでの楽しみ等を取り入れた生活になるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	持てる力、心身の状態を把握し見守りを基本に出来ることを見極め、職員全体で話し合いながら、一人ひとりが1日を張りのあるものとするよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居に際しての面接等において、ニーズを把握・検討し、会議において職員の意見を聞き、ご本人、ご家族の要望を基に個別の具体的な介護計画を作成している		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に一度の見直しを基本に、ご本人の状態の変化を把握し、ご本人・ご家族との話し合いの上、必要に応じて臨時の見直しを行う等、きめ細かいケアへの計画に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を入居者個々に記入し、ケアプランを共有し統一したケアを行っている。又、記録に残すのみに終わらず、検討すべきことについてはその都度話し合い、引継ぎにより変更する共に、次計画に反映している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	病院受診の付き添い、薬の受け取り、入退院のサポートなど、ご家族の希望や要望に合わせた支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員の協力のもと、地域で開催されるいきいきサロンなど、暮らしを楽しめる行事参加をしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者の日常を支援するために、杖、歩行器等、福祉機器の専門職と連携をとりながら、安心、安全な生活が送れるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	要支援者に対して、地域包括支援センターとの連携をとり、ご本人やご家族等の意向に沿った援助を行っている		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人・ご家族の希望するかかりつけ医を基本としながら様態が落ち着いた時点でご家族の納得の上、協力医療機関への移行を含め、適切な医療が受けられるよう支援している。又、眼科や皮膚科等かかりつけ医には、速やかな受診ができるようご家族との協力体制により行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居時の重要事項説明書や契約書により説明し、同意を得ている。又、ホームの方針には、プライバシーの尊重を明示し、一人ひとりの状況に適した言葉掛けや対応を心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居尾者一人ひとりのペースに合わせて、日常生活の中での入居者の言葉・表情・しぐさ等からご本人の伝えたいことを受け止め、できる限りの自己決定や感情の表現ができるよう接している。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の1日の暮らしの中で希望を拒否することなく、散歩・カラオケ・風船バレー等の娯楽を体調を観察しながら、入居者に合わせた支援に努めている。又、意思表示が難しい人には、表情やしぐさから意向を汲み取り支援している。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	美容院へ付き添う同行を行っている。美容院で落ち着かない方には、ご家族の意見を聞きホームで散髪・毛染め等を行っている。服装については、ご本人の好みを第一に考えた支援とし、特に季節に適切でないと感じた場合においても、一方的ではないし会厭に努めている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は最も楽しみにされていることのひとつであり、食事作りについては、特に献立・食材選びには重点を置いている。季節の食材を使って入居者と一緒に調理をし、後片付けも職員と入居者が一緒に行っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者の望む嗜好品は体調等を観察しながら摂取できるよう支援している。又、認知症からくる症状により、食べすぎ、置忘れがあることから、ホーム側で預かることもあるが、状況に合わせて楽しめるよう支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意・便意の訴えない方には、個別に、適したパット等を使用するなど工夫している。排泄の時間やパターンを把握し、お声掛けにも依頼形で行い、プライドを傷つけないよう注意し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助浴が大半となっている為、時間帯等、希望にあわすことは出来ていないが、入浴時の会話やリハビリを兼ね、楽しんでいただくよう支援している。又、自立にて入浴の方には、希望・タイミングに合わせた入浴を実施している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	夜間の室温管理は一人ひとりの体調や希望に合わせて安眠できる条件として、寝衣、寝具の状態も清潔保持した物を選んで行っている。又、馴染みの夜間職員の対応にも安心して、ほとんどの方がよく眠られている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の生活の中で自然に自らの役割(調理・テーブル拭き・洗濯物干し、洗濯物たたみ等)をされている。入居者の趣味や関心のあることを把握し、希望に合わせた刺繍・カラオケ等を行っている。又、季節行事やお誕生日会・散歩や外出は最も楽しみにされており、気分転換、気晴らしになり出来る限りの支援に努めている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の状態に合わせて、自己管理や預かりを検討しながら支援している。ホーム側の預かりとなっても、いつでも必要なときは、使用できるようになっており、金銭出納簿に記入し、ご家族様に残金を報告している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域行事には積極的な外出の機会がある。又、日常のホーム周辺の散歩は、入居者の体調、天候に合わせたコース、時間に配慮し歩行の不安定な入居者についても老人車、車椅子を利用することによって、戸外の雰囲気を楽しめるよう支援している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	地域の夏祭り、いきいきサロン、老人会主催の芝居見物に参加している。又、ご家族への呼びかけを行い、お花見会の機会を設けたり、ぶどう狩りも実施した。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	写真に一言の便りをつけていただくなど、ご家族への便りを勧める事や、事務所内の電話を自由に利用できることを入居者やご家族に説明し、外部との交流の支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問しやすい雰囲気作りを心がけ、茶菓子等の接待を行い、ご自分のお部屋でゆっくり過していただいている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束○の手引書」を参考に職員に周知し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。支持・命令形の言葉の拘束も行わず、入居者の尊厳を大切にし、信頼関係を築いている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室に鍵を掛けることは全くなく、プライバシーに配慮して、開放することに抵抗のある入居者には、のれん等で目隠しをする工夫をしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中、台所は対面式で入居者の様子が見えるようになっており、常に職員は安全確保のための見守りを行っている。夜間においては、階上の入居者にプライバシーをたもちながら、センサー等を利用し危険のないよう安全に配慮している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	台所での包丁、漂白剤等の危険な物は適切な場所で保管している。又、洗濯用洗剤、漂白剤等の置き場所には施錠している。刺し子等に使用した針には、常に管理して安全の確保に取り組んでいる。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者に予測される危険に対して、マニュアルに沿って職員全体が事故防止に取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当について勉強会を開いた。今後も定期的に事故発生時に備えた訓練を予定している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	スプリンクラー・火災報知器を設置し、万が一の時に備え、速やかな避難が出来るよう、夜間は管理者宅への直通コールによる応援体制があり、近隣の方への協力体制は自治会へお願いしている。又、定期的な避難訓練は実施した。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ケアプラン説明時には、入居者の起こり得るリスクを詳しく説明し、職員はプランに沿って危険防止に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	血圧と体温チェックを朝・昼に行い、体調の変化や異常の早期発見に努め、変化のある場合は、速やかに病院受診し、医師の指示を職員全体で共有している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬の説明書を活用して、入居者個々の服薬状況を職員間で認識している。又、高血圧・糖尿病等、継続治療中の入居者の服薬内容を職員間で共有している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘が及ぼす影響を周知し、胃腸に良いとされるカスピ海ヨーグルトの摂取やエアロサイクル・散歩など適度な運動を行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔ケアが困難な方の歯磨きは毎食後行うようにし、義歯の洗浄は就寝前に必ず行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みを取り入れた献立になっており、摂取量もほぼ全員が全量摂取している。盛り付けの工夫をしたり、刻み食が、スムーズに摂取できるよう配慮している。昼間の水分補給、夜間のお茶の配備、糖尿病の方の食事への配慮に努めている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防対策マニュアルが作成されている。季節的な感染症へは、引継ぎ時、会議時に認識を高めている。インフルエンザ予防接種は流行期前に入居者全員が受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板の洗浄・冷蔵庫の清掃は曜日を決めて行い、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	住宅地に位置し、玄関周りには、季節の草花を植えるなど、ご家族・訪問者が訪れやすい落ち着いた雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的な居住環境を重視し、四季の草花を共有の場所に活け、季節感を感じながら安らぎと、心地よさを感じてもらえるよう配慮している。又、居間には有線の音楽でゆったり過ごしていただけるようしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂以外にもソファを置いている部屋があり、廊下には長いすが置かれ、人の気配を感じながら、一人でゆっくりと落ち着いて過ごせるような居場所が確保されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者一人一人が、使い慣れた馴染みの物を持ち込んでいる。又、今までの手作りの作品や写真等も飾り、落ち着いたある居室となるよう工夫している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	入居者の体感に合わせた空調、天候・時間帯での温度調整を行っている。気になる居室や必要な箇所には、空気清浄機を使用するなど配慮している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアは段差がなく、階段のほか要所要所に手摺りを設置し、危険防止に努めると共に、歩行訓練に役立っている。又、日常生活行動に合わせ、ラジオ体操・リハビリ体操等で心身の機能低下を予防している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室の手作りの表札、トイレの目印、洗面所・エレベータへの案内、廊下の常夜灯等で場所間違いを未然に防いでいる。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関周り・ベランダに四季の草花を植えたりして楽しんでいる。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・家庭的な環境作りを常に心がけ、室内には家庭的な家具を選び、装飾も皆さんの手作り等を飾っている。又、常に季節の花を活けて環境作りを行っている。
- ・有線による音楽も心安らぐような音楽を選び雰囲気作りに心がけている。